

長崎県南島原市

体験内容（受入レポートから）

市内及び島原半島の観光資源視察
農業体験（野菜の収穫、トラクター操縦など）
漁業体験（タコつぼ漁など）
民泊体験（農家、林業宅への民泊）
市内のお盆体験（精霊流し、お墓参りなど）
市内の遺跡視察（原城跡、日野江城跡など）
市内イベントへの参加（スタッフとして、準備・運営など）

報告者

市町村　　：塩土　敬治（企画振興課）
体験調査員：川野　陽子（京都大学）
 ：鈴間　公子（立教大学）



平成21年度 若者の地方体験交流支援事業 (地域づくりインターン事業) 受入レポート

担当：長崎県南島原市役所 企画振興課 塩土 敬治

受入期間 平成21年8月10日(月)～平成21年8月25日(火)15日間
体験調査員 川野 陽子 京都大学農学部 森林学科 3年
鈴間 公子 立教大学観光学部 交流文化学科 3年
受入協力 民泊受入先：南島原ひまわり観光協会

【南島原市の概要】

南島原市は、長崎県の南部、島原半島の南東部に位置し、北部は島原市、西部は雲仙市と接しており、有明海をはさんで熊本県天草地域に面しています。

本市は、千メートルを越える雲仙山麓から南へ広がる肥沃で豊かな地下水を含む大地を有し、魚介類豊富な有明海及び橘湾に広く面する海岸線を持っており、気候は温暖で、適度な降雨量もあり、日照時間にも恵まれております。

また、本市には、日本で初めてヨーロッパの中等教育機関「セミナリヨ」が設置されました。その卒業生である「天正遣欧少年使節」が日本で初めてヨーロッパへ旅立ち、数多くのものを持ち帰り、当時は、国際交流の最先端の地として栄え、その後、幕府のキリシタン弾圧や重税から起きた一揆「島原の乱」は広く知られているところで、キリスト教と深く係わりのある地でもあります。

そのようなことから、ユネスコの世界遺産登録の国内候補暫定リストに、「長崎の教会群とキリスト関連遺産」が追加掲載され、その関連遺産に南島原市内の「原城跡」、「日野江城跡」、「吉利支丹墓碑」の3カ所も含まれました。

また、日本最初の国立公園である雲仙天草国立公園及び島原半島県立公園に指定されており、雄大な山々と美しい海を併せ持った風光明媚な地域です。

島原半島全域では、平成21年8月23日に島原半島ジオパークが、世界ジオパーク国内第1号に決定されました。

【受入目的】

本市においては、若者人口の流失により、自治会活動や地域活動の減少など、本市の基盤となる地域力の低下が進みつつあります。その対応策として、民泊・体験型観光や田舎暮らし推進事業の展開により、都市との交流を足がかりとし、民泊・体験型観光 短期滞在 長期滞在 移住といった流れを創りだす取り組みを行っております。

しかしながら、その事業内容については内部にて模索している状態であります。よって、本事業を通じて外部から見た本市の特徴や他の地域と比較して特化した点など、新たな感覚や視点での評価をしていただくことを目的としております。

【体験の内容】

- ・ 市内及び島原半島の観光資源視察
- ・ 農業体験（野菜の収穫、トラクター操縦など）
- ・ 漁業体験（タコつぼ漁など）
- ・ 民泊体験（農家、林業宅への民泊）
- ・ 市内のお盆体験（精霊流し、お墓参りなど）
- ・ 市内の遺跡視察（原城跡、日野江城跡など）
- ・ 市内イベントへの参加（スタッフとして、準備・運営など）

【体験スケジュール】

日程	時間帯	体 験 内 容	宿泊先
8/10（月）	午前		真砂（ホテル）
	午後	南島原市到着、歓迎会	
8/11（火）	午前	市内視察（民俗資料館など）	民泊（木下家）
	午後	地域見学（甲地区）	
8/12（水）	午前	農業体験（キュウリ発育確認、トラクター操縦）	民泊（木下家）
	午後	地域住民との卓球大会参加	
8/13（木）	午前	ひよつづる（わかめ麺）製造体験、新聞取材	民泊（菅崎家）
	午後	お墓参り、農業体験（野菜収穫）	
8/14（金）	午前	まんじゅう、スイカ、水汲み	民泊（菅崎家）
	午後	雲仙岳視察、農地見学	
8/15（土）	午前	イルカウォッチング、原城跡視察	雲仙館（旅館）
	午後	島原市内観光視察、精霊流し見学	
8/16（日）	午前	レポート作成	民泊（松尾家）
	午後	農業体験（農薬散布見学）	
8/17（月）	午前	農業体験（アスパラ袋詰め、選果場見学）	民泊（松尾家）
	午後	農業体験（アスパラ収穫）草履作り	
8/18（火）	午前	タコ壺漁見学、	民泊（松尾家）
	午後	長崎市観光視察	
8/19（水）	午前	日野江城跡発掘調査体験等	民泊（安達家）
	午後	農業体験（落花生収穫等）	
8/20（木）	午前	農業体験（オクラ収穫等）TV取材	民泊（安達家）
	午後	オクラを青果市場へ出荷	
8/21（金）	午前	青果市場せり見学	民泊（森永家）
	午後	雲仙普賢岳災害関係施設視察、MY箸作り	
8/22（土）	午前	林業体験（間伐作業等）	民泊（森永家）
	午後	ありえ浜んこら祭参加（スタッフとして）	
8/23（日）	午前	レポート作成	エコパーク論所原

	午後	レポート作成	(ケビン)
8/24 (月)	午前	レポート作成、せりの換金	エコパーク論所原 (ケビン)
	午後	報告会、送別会	
8/25 (火)	午前	関係者への挨拶・調査員出発	
	午後		

【活動の紹介：抜粋】



トラクター操縦体験



地域住民（小学生との卓球大会）



アスパラ収穫



タコ壺漁



イルカウォッチング



収穫したオクラを前に



普賢岳災害校舎（旧大野木場小学校）



民泊受入先家族一緒に

【受入成果と今後】

本市としましては、今年で2回目のインターン事業になりますが、担当者が人事異動で変わり今回初めてこの事業に携わりました。当初は数多い派遣先の中で凄く交通の便が悪い当市への申込はあるのだろうかと不安もありましたが、多数の申込をいただき、びっくりいたしました。私自身初めてのことで調査員のお二人には、数多くのご不便をかけたのではないかと思います。

体験プログラムについては、1つでも多くの物を見て、体験していただきたいとの思いから、プログラムを詰め込みすぎて、お二人には慣れない土地、慣れない環境で生活を行なう中で、非常に疲れたのではないかと考えております。その反面、私たちにとっては、多くのご意見や沢山のアドバイスをいただくことができ、とても充実したものになりました。

今回の事業により、調査員が気づき感じられた事は、私たちにとってはごく当たり前のことでしたが、しかし、今回、それがいかに重要なことであるのかを再認識することが出来ました。今回のアドバイスを今後の地域づくりへ活かしていきたいと思っております。

調査員のお二人とは今後も連絡を取り合いながら、いろんな意見を伺い、都市における南島原市特派員としてご協力いただくようお願いしております。都市に強力な特派員ができたことは、南島原市にとってとても大きな収穫となりました。

長崎県 南島原市 地域づくりインターン報告書

2009年8月10日～25日

京都大学 農学部 森林科学科 3年 川野陽子



市の概要

南島原市は長崎県の南に位置し、島原湾に面している。面積は 170k m²、現在の人口は 53,590 人である。アコウとヒマワリがそれぞれ市の木と花である。平成 18 年に深江、布津、有家、西有家、北有馬、南有馬、口之津、加津佐の 8 つの町が合併し、南島原市となった。市には山と海の両方があり、農業・漁業とも盛んに行われ、自然に恵まれている。また、深江などは平成 3 年の雲仙普賢岳噴火により被害を受けた地域でもある。

特産物はジャガイモをはじめとする農産物や若布やアラカブ（カサゴ）などの水産物、島原手延べそうめんである。

平成 19 年 1 月に長崎の教会群とキリスト教関連遺産 26ヶ所が世界遺産暫定一覧表に登録された。そのうち 3ヶ所(原城跡、日之江城跡、切利支丹墓碑)が南島原市にある。また、島原半島には、雲仙火山など様々な地球科学的現象を観察できる箇所があるため、雲仙市、島原市とともに、ジオパークとして世界初の地質学的世界遺産を生み出そうという活動が行われ、先日正式に認定された。このように南島原市は世界遺産登録を目指し、観光地、民泊の整備に取り組んでいる。

参加動機 今、地方の過疎化や農業従事者の高齢化等が問題視されてきている一方、農業の重要性が再認識され始めている。情報としての理解だけでなく、現在の地方のあり方や第一次産業の現状を、実際に見て自分自身で経験し、考えてみたいと思った。都会で生まれ育った私が、地域の人々との交流や田舎暮らしを体験により、新しい視点から地域の魅力と問題点を考え出したいと思った。また、自分がどういった貢献ができるのかを試したいと思った。

山と海を併せ持つ地域ということで農業、漁業、林業の体験ができ、さらに地域の祭の運営、市内視察、民泊といった体験内容が豊富な地域を選んだ。



体験内容・スケジュール

- ・ 民泊 ・ 地域暮らし体験 ・ 農業 ・ 漁業 ・ 林業 ・ 特産品製造
- ・ 伝統行事見学 ・ 市内観光資源視察 ・ 近隣都市視察 ・ 地域の祭運営 etc

日程	午前	午後	宿泊先
8/10(月)	長崎市内観光	市内到着、市役所訪問、歓迎会	原城温泉 真砂
11(火)	民俗資料館、ひまわり畑、白浜見学	地域見学(甲地区)	木下家
12(水)	キュウリ作業、トラクター運転	地域住民との卓球大会	木下家
13(木)	特産品ひよつづる製造体験	お墓参り、野菜収穫	菅崎家
14(金)	饅頭作り、スイカ収穫、水汲み	雲仙岳観光、農地見学	菅崎家
15(土)	イルカ、原城跡、西望公園視察	島原市内観光、精霊船見学	旅館 雲仙館
16(日)	レポート作成	農業散布見学	松尾家
17(月)	アスパラ袋詰め、選果場見学	布草履作り、アスパラ収穫	松尾家
18(火)	タコ壺漁体験、	長崎市内観光	松尾家
19(水)	日野江城跡発掘調査、鮎帰りの滝	落花生収穫、牛見学	安達家
20(木)	オクラ収穫、袋詰め、TV取材	オクラを市場へ出荷	安達家
21(金)	せり見学	被災校舎見学、My 箸作り、木の香、魚	森永家
22(土)	間伐見学、丸太切断、雲仙温泉	ありえ浜んこら祭参加	森永家
23(日)	レポート作成	レポート作成	エコパーク論所原
24(月)	せりの換金	報告会、送別会	エコパーク論所原
25(火)	市役所訪問、長崎市へ	帰宅	

* 活動紹介・農業体験 *



キュウリがまっすぐ育つように、茎を網に立て掛けて栽培している畑で、網と茎を固定する**テープ付け**を体験。

トラクターの運転(右上図) なかなかややこしい操作で、指示を受けながら歩くスピードで運転した。

収穫・スイカ(右下図)、アスパラ、オクラ、ゴーヤ、落花生、ナス、コショウなど

選別、袋詰め、ラベル付け・アスパラ、オクラ(左図)

市場へ出荷、選果場見学、せり見学、換金。



体験や農家の方とお話を通して、仕事の進み具合や収穫量が気象や生物の影響により左右されること、規定が厳しいこと、結果がでるまでに長期間必要なことなど、その大変さを知った。昼間を避けても、真夏に外やハウスで作業をするのはきついことだった。傷のつきやすい作物を1つ1つ丁寧に扱う作業は、集中力と技術力が必要であり、初心者が簡単にできることではないことを実感した。収穫したうち、虫食いや大きさが規定外のものを選別し商品にできるものは1/3だった。それらを大きさ別に袋詰めし、ラベルを付けて出荷する。翌日のせりにつけられた値段はスーパーで売られている値段の1/4だった。そこから手数料も引かれる。収穫から換金までを通して体験できたことで、労働に見合う給料ではないことを感じた。私たちが手伝うことで農家の方には手間と時間をかけてしまったが、こういった体験は日ごろ農業に接することのない人にとって、食についての理解が深められる大変意義のあるものだ。

* 活動紹介・タコ壺漁！ *

10m おきに 150 壺を回収。15 匹のタコが捕れた。壺に潜むタコ、壺から出てくるタコ、逃げるタコ(右図)、泳ぐタコを観察できた。小型漁船に乗れたことや、タコが餌として壺に入れていた魚も見られて楽しかった。体験型観光として商業化する場合、体験内容(タコの試食、タコの壺から水槽への移動)を増やせばなお良いと思った。



* 活動紹介・林業体験！ *



ヒノキ林内作業(左図) **My 箸作り** **木粉の香りあてゲーム**

林内では、間伐の必要性と手法を実際に作業をしながら説明してもらった。間伐が最近行われた箇所と放置されていた箇所との比較ができ、林床のコケやシダ類の違いに興味を沸かした。歩道の整備されていない林内は進みづらく危険だった。1本の細い木を間伐するのに時間もかかり、うまく倒れない場合もあった。この林の材木が商品になるのは半世紀後で、今の手入れは子孫のために行っているのだという。

* 活動紹介・特産品ひよつづり作り！ *

長崎漁師生産組合にて製造見学、体験(右図)。ひよつづりとは、地元特産物ワカメでできた麺類である。この名前は、南島原の方言に由来する。特産物利用の成功例である。



* 活動紹介・日之江城跡 発掘調査！ *



日之江城は有馬氏の城であり、世界遺産登録を目指している箇所。文献は残るが絵図などが残っていないため、周辺ルートの解明が今回の目的である。発掘調査をしている方は、退職された方が多く発掘調査の楽しさなどを生き生きと語ってくださった。そこで生涯学習としても有効だと感じた。掘ると(左図)、土器の小片などが意外と多く見つけれ面白かった。

* 紹介活動・観光資源の紹介と見解 *



口之津歴史民俗資料館 この地域の多岐にわたる貴重な文化財や、日本全体の歴史に係る文化財が保存されている。展示物に近寄れること、写真撮影可能なこと、物によっては触れることができることにも、価値があると思った。館長さんの分かりやすい説明により理解が深まった。丁寧な解説があることで来場者の関心や満足度も高まると思う。ガイドの重要性を知った。今後の継続したガイドの育成が求められる。

ひまわり畑 観光資源として、1番強力だと思う。市と市民とが協力してひまわり畑を作ることで市のイメージアップにも繋がる。この広大で魅力的なひまわり畑を、原城跡や海岸、資料館などの史跡やその他観光スポットを結ぶように点在させる「**ひまわりドライブウェイ**」を提案したい。



イルカウォッチング 野生のイルカを間近で見られる体験は貴重である。何頭ものイルカの数に感激した。イルカについての紹介や、近海についての説明などがあれば、さらに満足のいく体験となると思う。問題点として、たくさんの船がエンジンや歓声といった大きな音をたてながらイルカを追い回すことには、自然や生物への配慮が足りないと感じた。ある程度の距離を保つことや、隻数の制限をすべきではないだろうか。また、船酔いで苦しむ観光客が見られたが、ビニール袋や休憩室などの設置が不十分であった。起こりうる多様な事象の想定が必要であろう。



原城跡 (左図) 日本を鎖国に導いた島原の乱の主戦場。有名世界遺産暫定リストに含まれるように、日本を代表する文化財である。原城文化センターでは、乱に関する歴史、キリシタン文化について学べた。原城跡内の整備、ガイド育成が求められる。

精霊流し・お墓の飾りつけ・お祭り 伝統行事としてこれまで続けてきたことに加え、地域の人々が一団となってこのお祭りを作り上げていることに意義を感じた。他の都道府県ではあまり見られない、大量の花火とバクチクを使うここの独特の祭りの模様は一見の価値がある。

鮎掃りの滝 (右図) 岩でできた自然の滑り台や、ある程度の深さのある場所など、楽しめた。周りの美しい緑や水の透明度も魅力である。地域の人々の隠れ家的な避暑地であり、観光地化する場合、規制(人数、環境への配慮、安全面)が必要であると思う。



第9回ありえ浜んこら祭 来場者、イベントへの参加者ともに年齢層に偏りがそれほどない点、地域の人々との交流がある点、浜という地元の環境を活かしている点が評価でき、地域のお祭りとしては比較的成功していると思った。地域の人との交流が盛んに行われていることが、私の地元ではそのような機会があまりないため羨ましく感じた。今後、外部からの観光客を増やしていく場合、地元の人々が参加しにくくなる状況を避ける必要があるだろう。大きくしすぎる必要はないと感じたが、市内でいくつか行われているお祭りを統合することで、有家町周辺だけのお祭りではなく、南島原市のお祭りを作ることでもできると思う。その際、盆踊りや出し物で8つの町それぞれの特色を出せる機会となれば良いと思う。

~ 全体的な観光資源についての提案 ~

設備(トイレ、休憩所)の充実。どこの観光資源でも、観光客を迎え入れるという設備や体制が未完成であると感じた。観光地として市を盛り上げるには、施設や人材の完備が重要。

タクシーやレンタカー会社の紹介。価値のある観光資源はあるものの、交通の便が悪く外部の観光客にとって動きにくい。タクシーやレンタカー会社の紹介がスムーズにできる、広報やネットワークづくりが求められる。

* 民泊! * ~良かったところ~

温かい家族と一緒に過ごせたことに加え、**地域の人**が集まる機会が何度もあり、たくさんの人と交流できた。書物やメディアという情報からの理解ではなく、地域で実際に農業に携わっているとお話をすることで、理解できることがあった。



また、畑仕事、水汲み、布草履作り（右上図）料理といったように、そこでの**地域暮らし**を体験できた。自家製グリーンピースのうぐいす餡の饅頭（右下図）自家製ジャガイモのコロケなどなど、自家製作物がたくさん登場した。自給自足を成り立



たせているご家庭にも滞在することができた。さらに、ブタのたたきやしし肉など**初めての味**にも出会った。**魚介類、農作物が新鮮**で、本当に美味しかった。

地元の人ならではの**詳しい案内**により、スムーズにその土地を理解し楽しめた。

～改善ポイント～

毎日のご馳走と歓迎で大変有難く美味しいものばかりだったが、捨てられる程の量が用意されるのは、少々もったいない気がした。また、ティッシュペーパー、ゴミ箱、机などの**備品**が滞在する部屋に完備されていると滞在しやすくなる。歓迎して下さるあまり、なくなってしまう**プライベートな時間の確保**も、長期滞在ではより大切になる。生活時間が大きく異なる家族がいる場合、**騒音や生活空間の考慮**も必要である。初めての顔合わせで、インターンのことを知らない家族がいて驚かれるということがあったが、事前の**家族全員の理解**が求められる。



～提案点～

民泊を受け入れる側の研修や交流会。それぞれの家での取り組みや、体験プランなどの意見交換で、より民泊が有意義なものとなるだろう。民泊先の創意工夫や民泊先同士の協力によって、民泊がよりよくなるだろう。また、地域の交流や活性化にも繋がる。

学生の体験学習、バカンスプラン、農家育成プランなどというように、**対象者別のプラン**作り。体験内容を**オプション**として**選択**できるシステムも有用だろう。

事前に受け入れ家族の希望調査を行っての**民泊者と受け入れ家族のマッチング**や、どうしても合わない場合に受け入れ先を**変更できるシステム**作り。

移動手段の設置。民泊者が利用できるバイクや自転車があれば、動きやすい。

日本の田舎を体験したいという**外国人**は多い。日本らしさや、田舎ならではの人の温かさを知ってほしいと思う。

感想

南島原市には美味しい食べ物、ひまわり、歴史、貴重な史跡、地元の人々が地域を思う気持ち、そして人との繋がりと**いう魅力**がたくさんある。この地域を知れたこと、温かく、陽気な人たちに多く出会えたことを本当に嬉しく思う。初めは、それまでお会いしたことのない方々がそんなにも私たちを歓迎して下さることに驚いた。また、市役所の方々と市民の方々との繋がりが強いので、これからの地域発展の可能性も大きいと感じた。こういった人との関わり合いが、田舎の良さであると思う。都会で育ってきた人たちに、この田舎の良さをぜひ紹介したい。

民泊先のご家族、市役所の方々がそれぞれに、たくさんの体験をご用意して下さったことで、充実した時間を過ごすことができた。近所付き合いの濃さ、周辺の自然環境、車での移動などといった田舎のあり方が、とても新鮮で毎日たくさんの発見があった。今回体験させていただいた様々な体験は、第一次産業について、地域のあり方について、深く考える機会となり大変貴重なものとなった。民泊先のご家族、市役所の方々、地域の方々には、大変感謝している。また南島原市を訪れて、皆様にお会いしたい。

南島原市 地域づくりインターン報告書

2009年8月10日～25日

2009年8月24日

市の概要

立教大学 観光学部 交流文化学科 3年生 鈴間公子

南島原市は長崎県の南に位置し、島原湾に面している。面積は170平方km、今日の人口は53,590人である。“あこうの木”と“ひまわり”がそれぞれ市の木と花である。平成18年に深江、布津、有家、西有家、北有馬、南有馬、口之津、加津佐の8つの町が合併し、南島原市になった。市には山と海の両方があり、農業・漁業ともさかんに行われ、自然に恵まれている。また、深江などは平成3年に起こった雲仙普賢岳の噴火で被害にあった地域でもある。特産物はじゃが芋をはじめとする農産物や島原手延べそうめん、アラカブ(カサゴ)などの水産物が挙げられる。

平成19年1月に長崎の教会群とキリスト教関連遺産が世界遺産暫定一覧表に登録された。その26ヶ所のうち3ヶ所(原城跡、日野江城跡、切利支丹墓碑)が南島原市にある。また、島原半島には、雲仙火山など様々な地球科学的現象を観察できる箇所があるため、雲仙市、島原市とともに、ジオパークとして世界初の地質学的世界遺産を生み出そうという活動が行われ、先日正式に認定された。このように南島原市は世界遺産登録を目指し、観光地、民泊の整備に取り組んでいる。

参加動機

自分も福井県という田舎を出て、都市の暮らしと田舎の暮らしを双方に体感しながら差異の大きさに戸惑いを覚えたり、考えさせられる機会が多々ある。地方には若者の減少・高齢化や不便さなどの問題点がある中で、田舎の良さを改めて感じることもある。「田舎の暮らし」というものを自分の地元とはまた違った、別の視点で考え、どういった形で地域の活性化を促していこうという動きがあるのかを学びたいと思いこの事業に参加した。

スケジュール

日程	時間帯	体験内容	宿泊先
8/10(月)	午前	長崎市内観光	真砂
	午後	南島原市到着、歓迎会	
8/11(火)	午前	市内視察(民俗資料館など)	木下家
	午後	地域見学(甲地区)	
8/12(水)	午前	農業体験(キュウリ、トラクター)	木下家
	午後	地域住民との卓球大会	
8/13(木)	午前	ひよっつる製造体験	菅崎家
	午後	お墓参り、農業体験(野菜採り)	
8/14(金)	午前	まんじゅう、スイカ、水汲み	菅崎家
	午後	雲仙岳観光、農地見学	
8/15(土)	午前	イルカウォッチング、原城跡視察	雲仙館

	午後	島原市内観光、精霊船見学	
8/16(日)	午前	レポート作成	松尾家
	午後	農薬散布見学	
8/17(月)	午前	アスパラ袋詰め、選果場見学	松尾家
	午後	草履作り、アスパラ収穫	
8/18(火)	午前	タコ壺漁見学、	松尾家
	午後	長崎市観光	
8/19(水)	午前	日野江城跡発掘調査、鮎帰りの滝	安達家
	午後	落花生収穫、牛の見学	
8/20(木)	午前	オクラ収穫、袋詰め、ひまわり TV	安達家
	午後	オクラを市場へ出荷	
8/21(金)	午前	せり見学	森永家
	午後	旧大野木場小被災校舎見学、魚やさん	
8/22(土)	午前	ヒノキ林見学、丸太切断	森永家
	午後	ありえ浜んこら祭	
8/23(日)	午前	レポート作成	エコパーク論所原
	午後	レポート作成	
8/24(月)	午前	せりの換金	エコパーク論所原
	午後	報告会、送別会	
8/25(火)	午前	長崎市へ	
	午後	帰宅	

*** 観光資源について ***

11 日 **口之津歴史民族資料館・白浜・あこうの木・ひまわり畑**

館長さんの分かりやすい説明により理解が深り、来場者の関心や満足感も高まる。今後のガイドの育成が重要。

15 日 **イルカウォッチング**：自然や生物への配慮。何十匹ものイルカの群れの見学は、子供から高齢者まで楽しめる感動があった。しかし、イルカの群れを何艘もの船がエンジンから騒音をたて追いかけてまわす光景が少し奇怪であった。エコ・ツーリズムが謳われる今日、自然や生き物のことを考えた営業が、環境にも観光客にも良い影響を与えるであろう。見南島原市の海に生息する生き物などの資料館の設置も考えてみてはどうか。

船酔いなどで苦しむ観光客が見られたが、ビニール袋や休憩室などの設置が不十分であった。起こりうる事象の想定が必要。レストハウスなどの来場者の方への心遣いを。

精霊流し：私の地元の福井の海岸沿いでは、お盆に藁で作った小さな船を海に流す風習がある。南島原市の精霊流しにも少し似たようなものを感じたが、お盆の時期にお墓の前で花火をしたり、精霊流

しの際に花火や爆竹を激しく使う風習はやはり、南島原市、または長崎特有のものだろう。近年、お盆に地元帰るのもなかなか難しくなっているが、その文化や風習が代々受け継がれてほしい。

18日 **タコつば漁体験**：商業化する場合、体験内容（たこの試食、軍手着用後たこの移動など）が増えれば良い。

19日 **日野江城跡（発掘調査見学）**：日野江城発掘調査の生涯学習。発掘調査のアルバイトは、定年後の方々にとってのいきがいのひとつになっている。

鮎帰りの滝：鮎帰りの滝は地域の人々の隠れ家的な避暑地。観光地化する場合、規制が必要。

21日 **災害校舎（旧大野木場小学校）大野木場砂防みらい館、みずなし本陣**

22日 **第9回ありえ浜んこら祭**

市民祭りとして良いお祭りだが、さらに協調や地域の活性化に向けて、8つの町が交わるような企画を増やすべき。ありえ浜んこら祭に向けて、各町でのだしものや、対抗戦などの何かしらのイベントを作るのはどうか。ダンスや盆踊りも各町で練習する期間を祭りまでに設けるのも一つの交流になる。外部からの観光客増加は難しく思えた。ビーチバレー大会は、外部の方を呼び込むのに適していると思えたが、午前中で終わってしまうために、最後まで滞在するのが難しい。夕方からのステージでのイベントもゲストを呼ぶなどの、地域の交流と外部的視野のバランスを考えた祭り作りが必要。

観光地としての今後

- ・設備（トイレ、休憩所）の充実。どこの観光資源においても、観光客を迎え入れるという設備や、体制が少し未完成であるように感じた。「観光地」として市を盛り上げるには、施設や人材の完備を。
- ・タクシーやレンタカー会社の紹介。交通の便が悪く、外部の観光客にとって動きにくい。タクシーやレンタカー会社の広報やネットワークづくり。

「民泊」について 良かった点

< **アットホームな雰囲気・地域交流** >：民泊先だけでなく地域の人にも温かく歓迎して下さった。地域のネットワークは強みになるだろう。また、地域の子供たちとの卓球大会において少人数ながら、学年問わず教えあって仲良く卓球に励んでいることが微笑ましかった。

< **新鮮な食材** >：農業体験（収穫から出荷まで）やとれたての食材が食べ物の大切さを伝える。

< **地元の案内** >：地元の人であるが故に、外部の者にとって知らない町でもスムーズに回れるという利点。案内マップなどの情報誌よりもより分かりやすい情報。実際の現地の方との会話による理解

改善点

< **予算内での食事を** >：歓迎されたことで毎日のご馳走だったが、商業化を考えると、考慮することも必要である。

< **プライベートな時間の確保** >：研修などではない民泊の場合、プランの中に予定をつめすぎない。お客様の希望を優先すべきだが、市内観光をする日と農業体験をする日は分けるなど余裕のあるプランを。体験の他に自由時間を設ける必要性。生活時間が極度に異なる家族は部屋の位置などを調節すべき。

< **家族全員の理解が必要** >：初めての顔合わせで、インターンのことを知らない家族がいて驚かれた。今回は受け入れてもらったが、そうでない場合もあるだろう。受入れの名前の確認も必要。

提案点

<受け入れ前に簡単な研修・民泊を受け入れる側の交流>：民泊を受け入れる側の研修や交流会。お互いの家ではどのようなことをするかなどを話し合う機会によって、より民泊における設備の統一や規定が作りやすくなる。また、南島原市の中での地域の交流の一つとして、地域の活性化に繋がる。

<事前に受け入れ家族の希望要項などを調査>：ペット、たばこ、子供、受け入れ先の年齢など。

<対象者別のプラン作り>：対象者別のプラン...ex

1. 学生の研修プラン “ 修学旅行、研修旅行としての民泊プラン ”

・農業体験、林業体験、口之津資料館、普賢岳災害跡地や原城跡などの教育的な研修プランを企画。田舎暮らしの中で改めて大切にしていきたい、多くの子供たちがもっと経験できたらいいなと気づかされることがたくさんあった。田舎暮らしというものは、今後の社会を築く子供たちにとっても実りある経験になるのではないか。

2. “ 大人向け田舎暮らしプラン ” “ 農家になりたい方育成プラン ”

・農業体験や近くの温泉へ行くなど。基本的には、お客様が滞在でまず何をしたいのかを募り、プラン。これから農家になりたい方に1つの作物を選んでもらい、ロングステイで農業を学ぶプラン。

<各家庭にレンタカーやレンタバイクや自転車の設置>：観光客が動きやすくなる。



オクラの収穫（安達家）



オクラのセリ（西ありえ市場）



<感想>

民泊（菅崎家）

タコ壺漁体験

地域の形や町づくりに関して地域の人々の繋がり、そして市役所の方々と市民の人との交流の豊かさに驚かされた。地域を作りあげていこうという市役所や住民の人々の姿勢に活気を感じた。

今回は地域づくりインターンということで何か自分にも考えられることや、お手伝いができればと参加させていただいたが、地域への貢献というよりも自分にとって実りあることが多かった。その中で南島原市の方々から、「ありがとう、楽しかった。」などという有難い言葉をたくさんいただいた。様々な人々の流れや交流により、地域がより生き生きしたものになり笑顔が増えていくことを望みたい。お世話になった方々、本当に有難うございました。

